

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 金沢市立安原小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒920-0376

E-mail yasuhara-e.@kanazawa-city.ed.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 206名 女子 216名 合計 422名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

昨年度ユネスコスクールの認定を受け、生活科や総合的な学習の時間を中心に地域の「もの・こと・ひと」とのつながりを大切に、課題意識を持って主体的に行動できる力をつけるために「地域とともに生きる」というテーマに基づき持続発展教育 (ESD) の実践に取り組んできた。

3 年生 「大好き！安原 ～安原の「名産野菜」を調べよう～」

安原地区には、多くの農作物が育てられている。その中でも多く育てられているすいか作りを通して、安原地区の良さに気づき、農家の方々の思いに触れる学習を行った。5 月には農家の方々に「すいか名人」として来ていただき、苗の植え方、すいかの育て方について教えていただいた。水やりや草むしり等の世話、交配作業、カラスよけの工夫を行い、立派なすいかを育てることに成功した。すいかを収穫し食べる際にも「すいか名人」においしい食べ方を習うことができた。児童は、農家の方々の苦労や工夫を感じながら取り組み、「すいか名人」への感謝と尊敬の念を手紙に表すことができた。



4年生 「いいね！安原 ～だれもが住みやすい町づくり～」

「だれもが住みやすい安原の町づくり」をテーマにして、学習に取り組んできた。1学期には、アイマスクや車いす、高齢者など様々な立場を体験し、体の不自由な人の生活について調べたり、盲導犬や介助犬と共に生活している方のお話を聞いたりして障害についての理解を深めることができた。安原の地域には社会福祉施設が多数あり、特別養護老人ホームでお年寄りの方と交流した。初めは緊張してうまく関われなかった児童もお年寄りの方と交流をしていくうちに、思いやりを持って行動し、相手の良さを感じることもできた。3学期には、これまでの学習をもとに安原がだれもが住みやすい町になっているかを考え、ポスターにまとめて3年生に伝えることができた。



5年生 「お米から広げようお米の輪」

5年生では保護者の方に協力をしてもらって、毎年米作りをしている。ころころを使って苗を植える線を引く、田植え、稲刈りなどの活動を4月から9月にかけて行った。5年生から「田植えはどろどろして気持ち悪かったけど最後は楽しかった。稲刈りも重たくって大変だったけどたくさんとれてよかった。」という感想があった。できたお米は家庭の時間の調理実習で炊いて食べた。この学習を通して、米作りの手順や苦労と自然からの恵みへの感謝を学ぶことができた。



6年生 「未来に向かう金沢」

6年生は安原から金沢に視野を広げ、「未来に向かう金沢」というテーマで学習を進めてきた。まず、金沢を知るために本やインターネットを使って調べ学習を行い、金沢は古い町並みと新しい町並みが融合した町であることに気付いた。調べ学習で金沢の町に興味を持ったところで、グループごとに計画を立て、金沢城下町ウォークを行った。実際に見たり、観光客やボランティアさんに話を聞いたりして調べたことでふるさと金沢の歴史的な良さとそれを守るための思いを学ぶことができた。子どもたちにとって金沢がより身近な所となり、金沢の美しさをもっと広めていきたいという思いにつながった。学習の後には、学んだことを写真と共にパンフレットにして発信することができた。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとしての活動を生活科や総合的な学習の時間を中心に教育課程に位置づけて活動に取り組んでいる。金沢ふるさと学習を重視し、ESD を意識して教育課程を作成している。地域の人・地域社会・自然とのつながりを感じ取れる場を設定し、地域の方から学ぶ体験的活動を重視しながら、児童が主体的に課題に取り組めるように学習形態を工夫している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

学年会における連絡調整を行い、確実に取り組みを進められる体制をとったり、担任以外の教諭とも協力できる体制づくりを行ったりしている。各学年で行った実践を共通理解し、次年度に継続して実践していけるように前年度の取り組みを記録として残すようにしている。また、地域の関連機関とも連携し、継続した活動ができる体制を作っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学習や活動で活用したワークシートやふり返しカード等を累積し、児童の学習への取り組み状況や学習の成果を把握できるようにした。また、ホームページで活動の発信を行った。地域学習に対する児童アンケートにより活動の評価を行ったところ、9割以上の児童が肯定的な評価をした。しかし、他学年の取り組みを児童が把握できていないので学校全体に広げる必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

今年度は校内で他学年に学習したことを発表したり、新聞やポスターにまとめて発信したりして活動成果を伝えることができた。また、学年掲示板やホームページにより、地域にも発信することができた。児童は他学年のみんなに自分たちが学習してきたことを知ってもらいたいという意識は高く、主体的に取り組んでいた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

ユネスコスクールの認定を受けて2年目であり、学校以外の団体とのネットワークの形成はできていない。連携できそうな地域の企業や施設とのつながりを作っていきたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

今年度は国内外のユネスコスクールとの交流は行っていない。来年度以降、同じ中学校区の小学校や中学校と実践交流を図っていきたいと考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールの活動において「ひと・もの・こととのつながり」を意識して取り組みを進めたことで、児童が安原の地域や金沢の良さを感じられるようになった。また教員自身も地域教材を生かした授業作りを意識して考えることができた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

来年度も引き続き、地域の「ひと・もの・こと」とのつながりを意識しながら、体験学習を通して、人権・環境・福祉・防災教育等に取り組んでいきたい。また、学校研究の副題「主体的・対話的な学びを通して」を実践するにあたり、ユネスコスクールとして活動の充実を図る。

今年度は児童が主体的に課題に取り組んだことを生かしきれなかったもので、来年度は学年に応じて活動の成果を発信する場を設定し、学習してきたことを他学年・保護者や地域に発信できるように計画的に取り組んでいく。